令和５年８月２日

（表題）台風第６号の接近に伴う農作物等被害対策情報について

（担当）農業技術防除センター　専門技術部

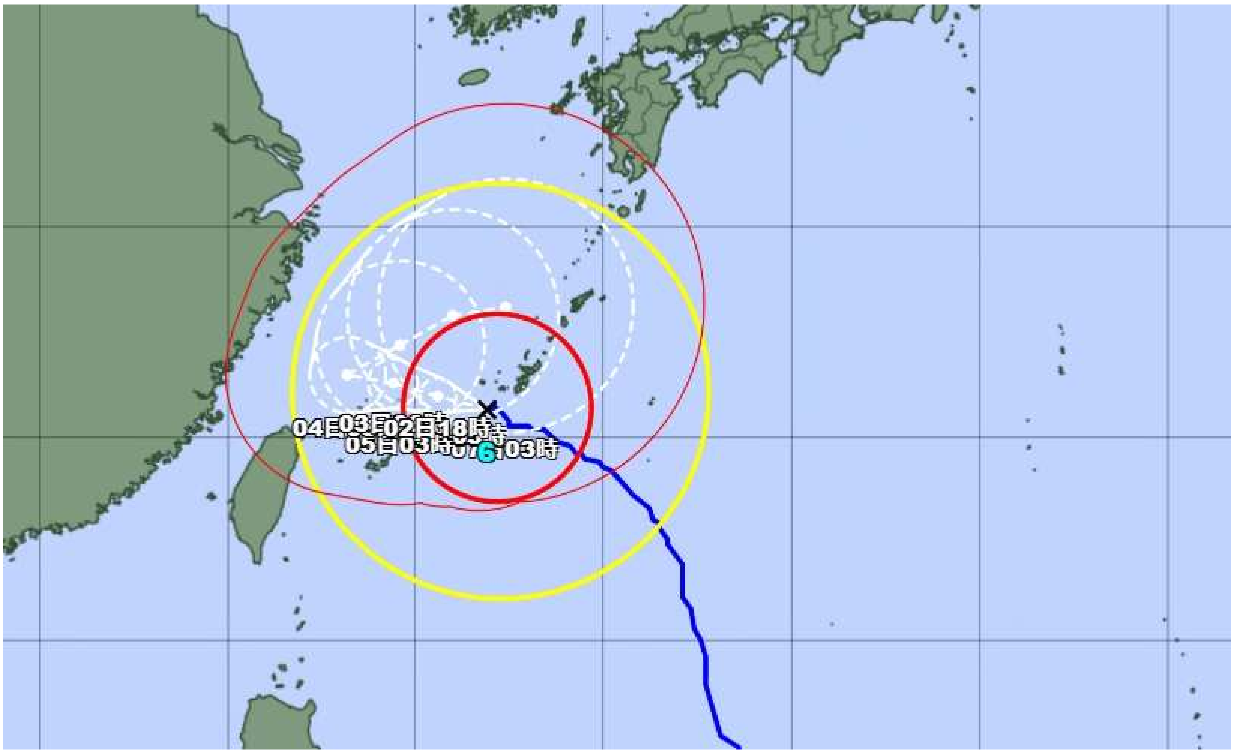
○気象庁発表の「台風第６号に関する情報第８５号」によると、大型で非常に強い台風第６号は、２日８時には久米島の南約７０キロにあって、１時間におよそ１０キロの速さで西北西へ進んでいます。中心気圧は９３０ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は５０メートル、最大瞬間風速は７０メートルで、中心の東側２８０キロ以内と西側２２０キロ以内では風速２５メートル以上の暴風となっています。

○台風第６号は、非常に強い勢力を維持したまま３日にかけて沖縄地方に接近した後、東シナ海で速度が遅くなるため、５日以降も台風の影響が長引く恐れがあります。

○また、高気圧の日本付近への張り出しが次第に弱まっていることもあり、今後の進路予想は大きく変化する可能性があります。進路によっては、西日本から九州に近づく恐れもあり、県内の農作物等への影響が懸念されます。

○このため、台風による農作物等被害対策を別紙のとおり取りまとめましたので、現地指導に活用してください。

［参考］進路予想図（８月２日８時時点、気象庁ホームページより）



佐賀県農業技術防除センター

Ⅰ．水　稲

１．生育状況

（１）極早期、早期水稲　：黄熟期～収穫期
（２）山間早植え水稲　　：穂ばらみ期～出穂揃期
（３）普通期水稲　　　　：最高分げつ期～穂ばらみ期

２．技術対策

（１）台風が近づけば、風による稲体の揺れ動きを少なくするため深水管理とする。特に、早期及び早植水稲は茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期にあたるので、可能な限りの湛水を行う。
（２）茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、台風通過後は新しい水と交換し、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持に努める。
（３）台風通過後は茎葉の損傷で、白葉枯病等が発生しやすいので常発地では注意する。
（４）水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。できれば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも 2～3 回は水を入れ替え、生育回復に努める。

Ⅱ.大豆

１．生育状況

（１）7 月中旬に播種された圃場では、本葉 2 葉期前後である。
（２）7 月下旬に播種された圃場では、初生葉～本葉 1 期前後である。

２．技術対策

（１）台風による大豆の被害は茎の損傷、葉の裂傷等があり、生育量・風速によっては倒伏する。倒伏した場合は、収量や品質が低下するので、できるだけ引き起こす。
（２）台風通過後は、葉の損傷による葉焼病に注意するとともに、的確に防除する。
（３）有明海沿岸では潮風による塩害の恐れ（大豆の生育及び収量は、塩分の影響が極めて大きい。大豆は土壌中の塩分濃度が、0.03%でも著しい被害を受け、0.125%では収穫皆無となる）があるため、潮風を受けた場合は、台風通過後、散水し塩分除去に努める。
（４）降雨量が多くなれば、晩播のものでは冠水が想定される。時間が長引けば、被害が増加するので速やかに排水に努める。

Ⅲ．野菜

１．生育ステージ

（１）促成イチゴは、次作に向けた育苗期である。
（２）促成イチゴ・ナス・キュウリ・トマトは、次作に向けた土壌消毒・土作り期間である。一部農家で、早い抑制作型や雨除け夏秋作型が栽培されている。
（３）夏秋ナスや夏秋雨よけピーマンは収穫期となっている。
（４）半促成長期どりアスパラガスは夏芽の収穫期となっている。

（５）雨よけ野菜の主要品目であるホウレンソウとコネギは、播種時期の違いにより生育ステージはさまざまである。

２．事前対策

<イチゴ>

（１）苗には、予防的な薬剤散布を必ず実施する。

（２）薬剤散布のあと茎葉が乾燥したら、寒冷紗等でべたがけを行い、寒冷紗が吹き飛ばないように直管パイプやブロック等で押さえる。

（３）土壌消毒中で密閉しているハウスはハウスバンドを締め直し、台風の強さによってはハウス本体を守るためビニルを除去できるよう準備を行う。

（４）育苗床は排水溝を確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。

（５）加温機、自動開閉装置等の機材や関連施設の対策も十分に行う。

（６）タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

<施設ナス・キュウリ・トマト等>

（１）栽培中のハウスや土壌消毒中のハウス、硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。

（２）換気扇を回す場合は、停電等に備え発電機を準備する。

（３）密閉するハウスは、ハウスバンドを締め直し、妻付近の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。台風の強さによってはハウス本体を守るためビニルを除去できるよう準備を行う。

（４）栽培が終了し、土壌消毒等を行っていないハウスは早めにビニルを除去する。

（５）他はイチゴの（５）、（６）に同じ。

<雨よけ野菜>

（１）ホウレンソウやコネギ等収穫中の品目は、収穫できるものを早めに収穫する。

（２）栽培中のハウスは、防風ネットや寒冷紗等で被覆して耐風性を強化する。

（３）ハウスバンドやラセン杭を補強し、ビニルの破損部があれば補修する。

（４）台風接近時には妻とサイドのビニルを下ろし、風が吹き込まないようにする。

（５）アスパラガスは、茎葉の損傷をできるだけ少なくするため、支柱が抜けないよう確認し、ネットをしっかり張り直す。

（６）アスパラガスは、茎葉損傷等による草勢低下を防ぐため、事前に追肥を行う。

（７）播種予定のコネギやホウレンソウは、台風が通過した後、直ちに播種できるように古ビニル等のべたがけを行う。

（８）排水溝の詰まりがないかを確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。

（９）台風通過後の水洗や防除等に備え、タンクに清水を汲んでおく。

<露地夏秋野菜>

（１）収穫できる果実は、早目に収穫する。

（２）支柱や防風ネットの補強を行う。

（３）風雨による損傷を軽減するため、茎葉を支柱に誘引する。

（４）マルチ等は、強風で飛ばないようにしっかり止めておく。

（５）他は雨よけ野菜の（８）、（９）に同じ。

（６）定植時期が近い冬どりタマネギ圃場は事前にうね立てを行い、土寄せやマルチバンド等でマルチの固定を十分に行っておく。

＜その他＞

（１）セルトレイやポット等で育苗中のものは、倉庫等に搬入する。

（２）定植直後の圃場は、不織布等のべたがけを行う。

３．事後対策

＜イチゴ＞

（１）台風が通過後、直ちにべたがけしていた寒冷紗等を取り除く。

（２）育苗床が滞水している場合は、直ちに強制排水を行う。

（３）茎葉の損傷等により病害の発生の恐れがあるので、薬剤散布を行う。また、同時に草勢回復のために葉面散布剤を混合する。

（４）茎葉が汚れた場合や潮風害の恐れがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。

（５）苗の傷みがひどい場合は、直射光線を防ぐため寒冷紗等を被覆して草勢の回復を図る。

（６）ハウス周囲まで滞水している圃場では、強制排水により早急に排水を図る。

（７）太陽熱土壌消毒中に浸冠水したハウスは、地温の低下による消毒効果の低下が懸念されるので、消毒期間を延長する。

（８）薬剤による土壌消毒中に浸冠水したハウスは効果の低下が懸念されるのでビニルを被覆したままの消毒期間を延長し、地温上昇による消毒効果を期待する。

＜施設ナス･キュウリ・トマト等＞

（１）ハウス周囲まで滞水している圃場では、強制排水により早急に排水を図る。

（２）栽培期間中に浸冠水したハウスは、根痛み等による草勢低下を防ぐため、液肥や葉面散布等を行う。

（３）太陽熱土壌消毒中に浸冠水したハウスは、地温の低下による消毒効果の低下が懸念されるので、消毒期間を延長する。

（４）薬剤による土壌消毒中に浸冠水したハウスは、効果の低下が懸念されるので、ビニルを被覆したままの消毒期間を延長し、地温上昇による消毒効果を期待する。

＜雨よけ野菜＞

（１）アスパラガスは、ビニル破損等により風雨が降り込んだ場合、茎枯病等の発生を予防するため、早急に殺菌剤の薬剤防除を行う。

（２）破損したビニルはすぐに除去して新しいビニルを被覆し、茎葉がその後の降雨に当たらないようにする。

（３）軟弱野菜類のべたがけは直ちにはずし、天候回復後の萎れ軽減のために寒冷紗等で天井を被覆する。

（４）倉庫等に移動した苗は、軟弱に生育することを避けるため、台風通過後は早急に育苗ハウスに戻す。

＜露地夏秋野菜＞

（１）風雨によって作物に損傷が生じた場合は、痛んだ茎葉や果実を除去する。

（２）雨水が畦間に湛水している場合は、直ちに排水し、マルチを畦の肩まで上げ、過湿による根傷みを防ぐ。

（３）マルチの剥げや支柱の傾きを直し、誘引資材の損傷があれば補修する。

（４）茎葉の損傷等による病害発生を防ぐため、低濃度の薬剤散布を行う。また、草勢回復のため、同時に葉面散布剤を混合する。

（５）うね立ての遅れによりキャベツ・ブロッコリーの定植時期が大幅に遅れる場合には、

苗への追肥は行わず、潅水管理だけで育苗を継続し、定植前に液肥を施用する。

Ⅳ．花き

１・生育ステージ

＜施設栽培＞

（１）電照ギクは、育苗期から出荷期のものがある。
（２）バラは収穫期間で、一部、植替え～育苗中のものもある。
（３）カーネーションは生育期であり、中山間地は出荷期となっている。
（４）トルコギキョウは育苗期であり、中山間地は出荷期となっている。
（５）シンテッポウユリは生育期から出荷期のものがある。

＜露地栽培＞

（１）キク、シンテッポウユリ等は生育期から出荷期、ホオズキは出荷期となっている。

２・事前対策

＜施設花き＞

（１）密閉するハウスは、ハウスバンドを締め直し、棲面付近の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。
（２）栽培中ビニルハウスや硬質フィルム施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。
（３）加温機、自動開閉装置等の機材や関連施設の対策も十分に行う。
（４）栽培終了ハウスや土壌消毒等を行っていないハウスは、早めにビニルを除去する。
（５）台風の強さによっては、栽培中でもハウス本体を守るためにビニルを除去する。
（６）タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

＜露地花き＞

（１）倒伏・茎曲りを防止するため、ネット上げやネット及び支柱の固定を行う。
（２）圃場の周囲に排水溝を掘り、排水条件を良くする。
（３）収穫できるものは早めに収穫する。
（４）マルチ等は飛ばないようにしっかり止めておく。
（５）タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

３・事後対策

＜施設花き＞

（１）破損したハウスでは修理を早急に行い、雨がかからないようにする。
（２）ハウス内に水が入った場合は、早急に排水を行う。
（３）倒伏した場合は、速やかに元に戻し、ネットや支柱で固定する。
（４）茎葉の損傷等による病害発生の恐れがあるので、薬剤散布を行う。また、同時に葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
（５）急激に天候が回復した場合は、強光による葉焼けを防止するため、光量に応じた遮光資材のきめ細かな対応に努める。
（６）電照ギクは、電照装置が正常に稼働しているか確認する。

＜露地花き＞

（１）倒伏した場合は、速やかに元に戻しネットや支柱で固定する。

（２）圃場に水が溜まった場合は、速やかに排水を行う。
（３）茎葉が汚れた場合や潮風害の恐れがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。
（４）茎葉の損傷等による病害発生の恐れがあるので、薬剤散布を行う。また、同時に葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
（５）マルチ下の土壌が過湿状態にあるときは、雨が上がってからマルチを剥ぎ、畦肩を露出させて土壌を乾燥させる。

Ⅴ．果樹

１．生育ステージ

＜カンキツ類＞

（１）露地カンキツ類は、果実肥大期である。
（２）ハウスミカンは、被覆・加温時期の違いにより収穫の終了した園から収穫前の園とさまざまである。

＜落葉果樹類＞

（１）トンネルナシ（幸水）、トンネルブドウは収穫期となっている。
（２）露地ナシ及び露地ブドウは果実肥大～成熟期、キウイフルーツ、カキは果実肥大期である。

２．事前対策

＜露地カンキツ類＞

（１）強風により枝葉や果実が傷つき、かいよう病が発生しやすいため、発生の恐れのある園地・品種を中心に台風襲来の前に銅水和剤等の散布を行う。
（２）高接ぎ更新樹や開張性の強い品種では、強風による枝折れが心配されるため、支柱を立てて枝を誘引、固定する。また、幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
（３）大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検する。
（４）マルチ被覆園では圃場を点検し、マルチ押さえを増やすなど、風により被覆資　材が飛ばされないようにしておく。
（５）風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための用水を確保しておく。

＜施設栽培＞

（１）ハウス全体を点検し、破損個所の修理、ハウスバンドの締め直しを行う。
（２）強風時にビニルを除去しない場合は、ハウスの強度を高めるため完全にハウスを密閉し、換気扇を作動させてハウス内を負圧にし、ビニルのあおりを少なくする。
（３）パイプハウスの強度は一般に風速30m/sとされている。風が強すぎる場合にはハウス本体を守るために、ビニルを除去する。

＜落葉果樹類＞

（１）成熟期を迎えている樹種で収穫可能なものは収穫する。
（２）果樹棚の点検を行い、破損個所等の補修を行っておく。また、上下のあおりで果実のスリ傷や落果が増えるため、パイプによる補強やアンカーを増設し引き下げを行う。
（３）枝葉の損傷や落果防止のために、結果枝を誘引・固定する。

（４）幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
（５）強風雨によりカキの炭疽病等の発生が増加するため、台風襲来前に薬剤防除を行う。

３．事後対策
＜露地カンキツ類＞
（１）潮風害の発生が懸念される場合は、台風通過後なるべく早く2t/10aの真水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
（２）強風や土砂崩れ等で倒伏した樹は、早急に起こして支柱を立てて誘引・固定する。また、根元を敷きワラ等で保護して根の活着を促す。
（３）強風で折れた枝は早急に元に戻し、ヒモ等で結束する。枝折れがひどい場合は　切り落とし、傷口に癒合剤を塗布する。
（４）マルチ栽培で被覆資材がはがされた場合は、台風通過後直ちに修復するとともに、晴れ間をみてマルチを開放し土壌の乾燥に努める。
＜施設栽培＞
（１）ハウス施設が損壊した場合には、早急に修復する。
（２）ハウス内に雨水が浸入した場合には、園外への排水を図る。また、ハウス内の湿度を下げるため、換気を十分に行う。
（３）ハウスみかんで強風雨の影響を受けた場合は、褐色腐敗病の発生が予測されるため台風通過後薬剤散布を行う。収穫が近い場合には腐敗防止剤を散布する。
＜落葉果樹類＞
（１）落果した果実はヤガ等の吸汁害虫が誘引されるため、集めて園外に持ち出す。
（２）果樹棚や防風ネット等の施設の損傷は早めに修理する。
（３）倒伏した樹は早急に立て直し、根元を保護して樹勢の回復を促す。
（４）強風によって枝葉が損傷し、カキの炭疽病等を始めとした病原が感染しやすくなっているため、台風通過後は早急に薬剤散布を行う。

Ⅵ．茶

１．生育ステージ
（１）三番茶生育期、または、中切り、深刈り更新後の再生芽生育期にある。

２．事前対策
（１）大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回して、集排水溝を点検、整備する。
（２）マルチ被覆幼木園では、マルチおさえを確認して、強風でマルチが剝がれないようにする。
（３）風向きによっては潮風害発生の恐れがあるので、散水のための用水を確保しておく。

３．事後対策
（１）潮風害の発生が懸念される場合は、台風通過後、なるべく早く（付着した海水が乾燥する前に）真水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
（２）防霜施設の確認や、幼木園ではマルチのはがれや株の浮き上がりを点検し、元の状態

に戻す。
（３）強風により葉に損傷を受けた茶園では殺菌剤を散布する。

Ⅶ.畜産

１．事前対策

＜畜舎・家畜＞

（１）畜舎及び堆肥舎などの点検・整備を行い、風雨の侵入を防止する。

（２）畜舎周辺の排水溝を清掃し、排水対策を行う。

（３）畜舎周辺の施設、飼料タンクなどが暴風雨で飛ばないように固定を強化する。

（４）庇陰樹の整枝、板、スレート材などの飛来原因物を整理する。

（５）夜間の突発的作業や停電時に備えて、作業手順や道具の整理・整頓、自家発電装置、照明器具などの準備を行う。

（６）停電時には井戸ポンプが止まり家畜の飲料水が不足することがあるので、ポリタンク等に予備飲用水を確保する。
※1頭（羽）当たり必要量（L/日）：50（肥育牛）～150（乳牛）、豚：30、鶏：1

＜飼料作物＞

（１）飼料作物は収穫できるものはすみやかに収穫する。また、ロールベールの倒壊防止に努める。

２．事後対策

＜畜舎・家畜＞

（１）家畜の観察を行い、異常家畜の早期発見に努める。また、台風通過後の高温対策のため換気等に十分気を付ける。

（２）畜舎に雨水などの侵入があった場合は直ちに清掃した後、逆性石鹸500～1,000倍液を1～2L/㎡噴霧するか消石灰を散布して消毒する。また、新鮮な飲料水、腐敗やカビのない飼料を確保し、敷料は、新しいものに交換する。

（３）速やかに被災状況を確認し、被害施設の補修、修繕や家畜の事故につながる飛来物などの除去を行う。また、電気配線等の切断や漏電に注意する。

＜飼料作物＞

（１）刈り取り間近のものや被害し倒伏したソルゴーなどは早めに収穫・調製する。

（２）倒伏したものを青刈り給与する場合は、刈り取り後風乾して泥土を落として給与する。

（３）ロールベールサイレージ等のラップが破れた場合は、破損部分を直ちに補修して早めに家畜に給与する。